

(公) 都留文科大学

文学部
国文学科

キャリア教養学科 (会津学鳳高校出身)

Q1. 入学を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

入学以前から曖昧に考えていました。しかし、編入学を目指す上で私には英語の力が足りなかったため、高校の先生から英語の力を伸ばすことが出来、編入へのサポートが充実している桜の聖母を紹介されました。しかし最初は曖昧だった進路も、短大生活の中で様々な授業、例えば福島学などの授業をとったことで、将来自分も教育という面で福島復興に携わりたいと明確な目標ができ、以前から興味があった国語教師という職業に就きたいと決められたことでそれに向けてしっかり学ぶことができました。

Q2. 編入までのプロセスを具体的に教えてください。ガイダンスはいつ、どのような内容ですか。

大体の進路は入学当初から、しっかりとした目標は1年の秋ごろにはできていたため、それに向けての単位取得や選択はあらかじめできていました。ガイダンス以前から先生方が進路に関する悩みや相談を受け付けてくださっていたので、受験先の大学も早めに決めることができました。

Q3. 実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

学校で編入試験者用の講義があるのでそこで、違う学科の先生方にも小論文や面接で教わりながら、小論文は自分でも顧問の先生に見ていただきました。他学科の先生にも見ていただけたことで、様々な知識を得ることができ、自分の中でより広範囲なものの見方ができるようになったと感じています。

Q4. 編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

1年生の時から、英語の授業は出来るだけ取ってきました。他にも、福島学をはじめとした地域に根差した授業や体験ができるものは率先して参加したので、そこで得た知識は小論文や面接で役立ちました。国語は自学だったので、2年になってから曖昧になってしまった古文を中心に、国語学について学習しました。

Q5. 聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

英語です。私は英語が苦手だったので多くの授業をとってきました。自分のキャパシティを超えるほどとってしまい辛い時もありましたが、その分自分の中に確かなものとして残るほどの力を身に着けることができました。それは、自分でも頑張ってきたのは勿論ですが、先生方が親身になって授業以外でも質問を受け付け、疑問に対する答えやより良い学びにしていけるためのアドバイスを下さったからだと思います。

Q6. 先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

「面接では声を大きく」という顧問の先生のアドバイスです。私は教師を目指しているのですが、先生に「あなたが面接官だとして、声が小さくぼそぼそしゃべっている人が、教壇に立ち生徒達の前で教えることのできる人間だと思える？熱意を感じられる？」と聞かれ、いつも人に教えている先生の言葉だからこそハッとさせられました。簡単に聞こえるかもしれませんが一番自分にとって難しく、同時に大切な教えだったと思います。人は第一印象で他人のイメージを大体決めます。約10分間の面接時間の中で自分の考えや思いを伝えるうえで最も重要なことを教えていただけました。

Q7.①大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学時（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・④合格した時の気持ちを書ける範囲で教えてください。

- ① 英語で受験に失敗したので、合格して編入試験にチャレンジできるくらいの力を身に着けたいと考えていました。
- ② 受かるのか、本当に編入という進路を選択していいのか悩みました。楽な法に流されてしまいそうな自分との戦いでした。
- ③ 率直に申しますと吐きそうで、不安で夜も満足に眠れませんでした。
- ④ 胸がいっぱいでした。正直自分でも難しいと思っていた分喜びもひとしおでした。

Q8.これから聖母短大に入学する、または聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。私がお伝えしたいことは、学びに無駄はないということです。桜の聖母短期大学ではただの知識ではない、学びや体験を通して知を形成する授業や機会がたくさんあります。それらは、編入試験はもちろんこれからの人生を実りあるものにしていくのに十二分に役立てられるものばかりです。なので、短大生活を通して多くの授業をとり、経験を積んでください。